

園長だより「英語あそび」第34号

小学校に入学すると子ども達を取り巻く環境は大きく変化します。個人差はありますが多かれ少なかれ子ども達の中にはなにがしかの混乱が生まれます。これは仕方がないことかもしれません。大人でも職場や部署が変わったりすると少なからず混乱が生じるものです。卒園したばかりの幼い子ども達に混乱するなという方が無理な話ですよ。

「小1プロブレム」という言葉があります。環境が大きく変わったことで子ども達が小学校生活に馴染めず、混乱している状況を指す言葉です。

- ・授業中、勝手に教室の中を立ち歩いたり、出て行ったりする。
- ・担任の先生の指示通り行動しない。
- ・子ども同士のけんかやトラブルが日常的に起きている。
- ・授業中、私語が止まず、ざわざわしている。
- ・休み時間が終わっても教室に戻ってこない。

もちろん全ての子ども達が上記のような状況になるわけではありません。学級によって多い少ないはありますが、どのクラスにも小学校の学習環境にすぐに適応できない子どもがいるということです。以前はこのような状況も5月に入る頃から徐々に落ち着き始めました。ほとんどの子ども達が新しい環境に順応し始めたということですね。

ただ2000年を過ぎた頃からそうもいかなくなってきました。4月に発生した不適應の状況が1学期末にも収まらず、年度末まで続く学校も珍しくなくなりました。

このようにいつまでも混乱が続く状況を文部科学省が「小1プロブレム」として非常に重く捉え、幼児期の教育と児童期の教育の目標を「学びの基礎力の育成」という一つのつながりとして括り、一方が他方に合わせるのではなく、互いの教育を理解し、見通すようにするという考え方で施策を打ち出しました。そのキーワードが「保幼小連携」であり、今は「保幼小接続（幼児教育と小学校教育の接続という意味で幼小接続ということもあります）」ということになっています。

城東ちどり保育園でも卒園した子ども達が少しでも早く新しい環境に順応できるように「幼小接続」の観点から「城東ちどり保育園 架け橋プロジェクト」と称した取り組みをスタートさせています。「話し合い活動」を多く取り入れたり、「整える」ことの大切さを考えさせたり……。それぞれにねらいがあります。少し前に始めた「音読あそび」も、私が子ども達と一緒に遊んでいる「ボールは友だち」も「架け橋プロジェクト」の一つです。そして今年度から新たな取り組みとして、ゆめ組を対象に年間20回の「英語あそび」を始めます。小学校に入れば否が応でも英語活動に取り組むことになります。ゆめ組の子ども達があそびの一つとして英語に触れてくれることを望んでいます。ここまでできるようにならないといけないということではありません。英語あそびに取り組むことで、子ども達が「英語って面白いやん」と感じてくれたらそれで十分だと思います。